

車いす使用者における歴史的建築物のバリアフリーの状況とその方向性

－世界文化遺産 京都 17 社寺施設の事例－

本研究では、世界文化遺産に登録されている京都の 17 社寺を対象にバリアフリー調査を行った。各社時にアンケートを郵送し、実地調査の許諾を得られた 7 社寺に関して、調査を行った。調査内容は主に通路やトイレの現状と工夫点である。

通路では、多くの社寺で車いすの通行に適するように整備している。しかし、砂利道も多く存在したため介助を要した。また、通路の両側にある輪留めや柵も、木材や竹材が多く使用されていた。これにより景観を損なわず、取り外しが必要となった場合も容易にできる。

トイレについては、文化財保護法の制約がないため、各社時とも多目的トイレの設置が 1 箇所以上あった。また、一部の社寺のトイレには前傾姿勢支持テーブルや、車いす使用者のために鏡が斜めに設置しているといった利用しやすい工夫があった。

これらの結果から、各社寺とも車いす使用者に対するバリアフリーへの構築について熱意が感じられた。加えて、車いす使用者がより利用しやすくするために、砂利道用の車いすの貸し出しや、ボランティアの導入の検討の余地があると考えられる。